

洛友會報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛友會

過去五十五年の生活を顧みて

関西電力
(大正五年卒)

七里 義雄



私が卒業したのは大正五年であるから、今から五十五年も前のこととなる。同期の卒業生は三十人あったが、早く亡くなった人が多く、現在生き残っているのは僅か数人に過ぎない。誠に淋しいことである。最も私は満七十八歳で日本人の平均年齢を大分超過しているのだから、これは当然のことである。それにしても、恩師鳥養先生が大変御元気でいらっしやるのは嬉しい限りである。先生には公

私共特に大変な御厄介になっていたので、私のような非才が、阪大の教授となつて大過なく其の職を務めることの出来たのは、全く先生の御蔭であるといつも心の中で深く感謝している。

私は小さい頃から不勉強の癖もので、特に語学が嫌いで不得手なので、それだけでも学者になる資格はないものと思つて、友人達も私が大学の教授になるなどとは誰も思つていなかったが計らずも周囲の事情からそうならざるを得ないことになった。私はこれを私に定められた運命であると思つてそれに従う決心をし、昭和四年に阪大工学部の前身である大阪工業大学の助教授となつてから、昭和三十二年阪大を停年退官

するまでの二十八年間、京大の分家である阪大の電気教室を本家に取けない立派なものに仕立てたいと一身不乱に努力して来たつもりであるが、その間に恩師である京大の諸先生方に対して、度々非礼のことがあつたのを顧みて慚愧の念に堪えないものがある。

その頃の私のして来たことを顧みると、少しでも自分の利益を意識してかかつた仕事は悉く失敗している反対に、自分を忘れてした仕事は曲りなりに全部成功を遂げている。こんなことは誰にでも分り切つてゐる理の当然だとは思ふが、自分自身でこれを体得しただけに、折にふれて自分の弟子にこの体験を語つてゐる。

私の弟子の一人に易を研究している男がいた。その男が私の所に来て、次のようなことを私に教へてくれた。

人間にはその人が持つてゐる福と謂うものがある。福とは、その人の祖先の徳によつて築かれた遺産のようなものである。これをふやすか減らすかは、その人の常日頃の行ないによつて決まる。人が働いて何がしか世の中のために奉仕することがあれば、その人は福銀行にそれだけの預金をすることになるが、働いて得た利益を自分だけが取り込んでしまつたならば預金は少しもふえないし、更に、

自己か利益を得るために他人亦是世の中に迷惑をかけるようなことをすれば、自分の預金をそれだけ引き出すことになる。

私はロータリークラブに入会しているが、この会でいつも唱われている歌の「The profit the most who service the best」と謂う文句が上に述べた易の言葉と全く同じ意味であると思つてゐる。

終戦直後、大阪の街が焼野ケ原となり、人々が追い詰められたような堪えがたい日々を送つていた時、その一人である自分が、ふと暗市の店先のリングの美しさに呼び醒されて花で人の心を和らげるフラワースァイエティーの運動を起こして以来、今日までの二十余年を顧みて、この仕事のために最も恵まれたのは、実はこの私自身であることに気付いて唯有難や有難やと唱えたいのである。

今一ついつて置きたいことがある。先に述べたように私は阪大の電気教室の創立以来そこに務めて来たが、いつも京大の電気教室が本家で、阪大の電気教室はその分家であると思つて来た。その分家が榮えて来たことは本家の御蔭であるから、二つの教室はどんな時にでも手をつないで仲良くして行かなければならない。それが、双方が共に榮えて行く最良の方法であると信じてゐる。

毎年正月の五日に阪大の電気関係教官の合同年賀会があるので、本年もそれに出席して、後進の人には暮々もこのことを忘れないように謂つて来た。

聖徳大師の五ヶ条の御誓文にも「和を以つて貴とし」とある。和こそ人間の英知の産み出した處世術の心髄であると思う。

洛友会の皆様も、阪大の洛電会の諸君も、互いに手を取り合つて進んで頂くことを心から御願ひ致します。

阪大を停年退官した時、私は永い間重かつた肩の荷を降して、本当にやれやれと思つた。それ以来自分に適しない教職には就かず、気儘な生活を送らしてもらつてゐる。

若い頃は祇園あたりを毎晩のようにならうつて、そのためにも胃腸の病に苦しめられ通してあつたのが、大学を罷めてからはすっかり健康もよくなり、当年取つて数え年の八十才になるが、知らぬ人には未だ六十代かと思われ程の元気に恵まれている。

色々柄にもなく聖人君子のようになつてばかり書いたが、自分自身は決してそんな立派な人間であるとは思つてゐない。

「雀百までおど忘れず」で、若い頃の不良振りが未だに抜け切らないでゐる。

アメリカ雑感

中国 電力
(昭和十六年十二月卒)

松谷 健一郎

昨年六月、社用でアメリカに出張する機会を得ましたので、このときの感想を、特に企業という面からのべてみたいと思います。

アメリカのGNPは、一九七〇年に一兆億ドルを超えたということとです。これは勿論世界第一位でこれに続くのが日本ということになっておりますが、現実に現地での感じからしますと、一位と二位との差は非常に大きいのではないかと思います。

俗にいう経済の三要素、即ち、土地、資本、人口を比べてみても人口は密度が低いためか多いという実感はありませんが、それでも日本の約二倍あります。広大な土地は日本の数十倍であり、資本金



にしてもしかりです。仮りに、経済力を人間の成長の段階にたとえたと、アメリカを大学生とすれば日本は小学校の二、三年生程度ではないかと思われました。

最近の日米間の経済情勢をみますと、この小学生の坊やがときどき兄貴の癪にさわるようなことをやっていると、という風にとれます。アメリカの景気は必ずしもよくなるいようで、大型車の売れゆきも思わしくないようですが、このなかにあつて、フォルクスワーゲンとトヨタの車だけが非常に伸びているそうです。ニューヨークでマシーという百貨店がありました。ここで売られているマシー製というテレビは、実はサンヨー製だということでした。西部の或る電力会社では、日本製のケーブル、発電機などを多く見受けました。

このように、最近アメリカの国内において、日本の製品が非常に多くでまわっているのは、極めて明白な事実のようで、これが一部

のアメリカ人を非常に刺激しているというのも、また明白な事実のようです。ですから、フォードの社長でなくても、本気になって小型車を造り、日本のトヨタと対抗してやろうというような言葉は、くのも、無理からぬことだと思えます。

しかし、非常に大きな実力もっているアメリカの企業にも、やはり問題があるようです。三つ程私を感じたことをのべてみたいと思います。

第一は、アメリカ社会に流れているマイホーム主義です。アメリカでは、会社の地下二階、二階などは大低駐車場になっています。この車が夕方の五時になると、きれいに無くなってしまいます。ロスアンゼルスで聞いた話では、車のラッシュが夕方の一時期に極めて顕著に現われるそうです。日本の商社の方が笑っていつておりましたが、「あんなに急いで家に帰る必要はないではないか、一時間か四〇分まではスムーズに帰れるのに、車で押し合いしながら帰ってゆく。」ということでした。

ところが、土曜、日曜の休日でも非常に優秀な車がその駐車場に入ってくるそうです。これは、企業のエリートないしはその卵が休日にかかわらず出社しているとい

うことで、最近では、このエリートとマイホーム主義の社員との差がどんどん開いており、一説によりますと、アメリカの企業は極く一部のエリートが押えているという話も聞きました。学校を卒業して十年ないし十五年経つと、月給が千三百ドルから千五百ドル位になるそうで、これは大体、旧型の新車一台分にあたるそうです。だから、そのままの状態でも、車は数台持てるでしょうし、家も購入でき、うまくゆけばヨットも買える、家用飛行機も夢ではないとい

うようなことになれば、「あくせと働くばかりが能ではない。短い生涯だから適当に生活を楽しめばよい。」というような考えが出るのも当然かと思えます。

ピッツバークで聞いた話ですがW・H社は毎年大学卒業の技術者を六百人から七百人採用するそうですが、五年経つと、七〇%から八〇%の人がマイホーム主義者になってしまふということです。五年経つと結婚しますから、奥さんの尻に敷かれてマイホーム主義になってしまふということかもしれ

ません。

第二は、黒人の問題です。アメリカの国家企業は或る割合で黒人を雇う義務があるそうですが、私が訪問した電力会社は私企業です

が、やはり何パーセントかは黒人を雇っているようです。黒人を雇うことは、彼等に対して、差別待遇をしないということ、これが大企業というイメージを一般に植えつけているという風に考えて差しつかえないと思えます。

ところで、アメリカ国内の黒人の人口増加率は白人の三倍はあり黒人がほとんど白人を圧迫しているそうです。例えば、黒人が白人の居住区に入ってくると、土地の値段が下るそうで、白人が黒人を嫌って逃げ出すと、更に黒人が入り込むというようなこともあるそうです。黒人と白人との差というのは、生活意識に一番よく現われるようです。私の非常に短いアメリカ滞在の中に、黒人から二回程タバコをねだられた経験があります。白人からはもちろんそのよう

なことはありませんでした。また黒人というのは一般的に働きの悪いようです。

黒人問題は大きな社会問題ですが、黒人の人口が非常に伸びているということが、アメリカの企業にどのように作用するか、今後の問題ではないかと思えます。

第三は、ユニオンの問題です。日本の労働組合は企業別組合ですが、アメリカの場合は、業種別です。(次頁へつづく)

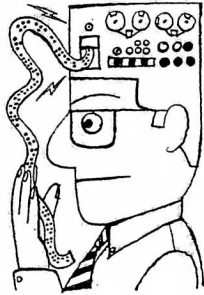
アメリカに駐在している日本のメーカーの人から聞いた話ですが日本の或る会社が変圧器の製作据付を受注し、それをアメリカのある駅まで運搬したとき、その変圧器を貨車から降すのは、電気工なのか、機械工なのか、あるいは、運搬工なのか非常に悩めたそうです。それが何とか結着したと思っ

ていと今度は、油の配管を行なうのは、電気工か、機械工かで大騒動し、結局、工事が完了して運搬開始に至るまでに、約六ヶ月を要したそうです。これなど、日本では到底、考えられない事です。

これも、アメリカの国内で日本のメーカーが発電機を据付けたときの話ですが、日本からの指導員が向うの工具を指導するのは問題ないので、彼等にやらせてみると、どうも無器用なので、見かねて手伝おうとすると、「我々の仕事を我々の組合員以外の者がすることは出来ない。」と非常に怒ったそうです。業種別組合ですから、自分達の業務については、組合員以外の者にはやらせない。そうしなければ、自分達のメシの食いあげになる。そのかわり、他人の権利は絶対に侵さないという觀念が非常に強いようです。従業員の解雇については、業種別であるから比較的簡単におこなえるようです

が、逆に、例えば、運搬工がストをおこなえば、国内の運搬業務全般がほとんどストップしてしまうなど、一つの組合のストが企業界に大きな打撃を与えることとなります。この辺のこともアメリカの企業にとって、非常に大きな問題だと思えます。

以上が直接アメリカで見聞した企業の問題点ですが、一説によると、一九八五年には国民一人当りのGNPはアメリカと同等になり紀元二〇〇〇年には、アメリカを抜いて世界一になり、GNPもアメリカと肩を並べるといわれる日本が、黒人問題は別にして、アメリカの足を踏まないという意味からも、今後これらがどのように変化してゆくか、我々は興味を持って見守る必要があると感じた次第です。



情報工学についての私見

坂井利之



工学部の拡張ブームの最終に近い段階で情報工学が京都大学に設置された。工学の分野の細分化高度化による専門化の中で情報工学科がその線上の一つとも考えられるし、また総合化、基礎工学科への反省段階であるとも言える。

情報工学科は、研究施設ではなくて、学生の教育、研究者の養成を行なうと共に工学の進展、社会の要望に應えるものでなければならぬ。率直に言って、情報工学科の卒業生はいつの時期においても充分なシェアを持つ産業の分野に採用されるだけの安定性が必須であるが、単に既存の電子計算機とか、通信システムの開発、保守管理の要員で満足しては意味がない。メーカーで現在作っているハ

ードウェア、メーカーやユーザで開発しているソフトウェアの段階に終始しているのでは、国立大学の、しかも文部省で、最初に設置をした情報工学科としてはさびしい。次の時代に生まれ出ずるであろうハードウェア、ソフトウェア通信のネットワークに対して、指導的の中心的存在として活躍する人材を養成しなければならぬと思う。例えば電子計算機一つにしても、計算サービスを主体とする計算機センターとは異なったオンラインの使い方、極めて長時間かかるシミュレーション、ソフトウェアの根本のオペレーティングシステムまで変更して考察する段階が付きまとうので、計算機の使用時間は長く利用時間帯やサービスの中断なども当然起りうる。

従って、煮て喰っても焼いて喰ってもよいような電子計算機が、情報工学の研究には必要になってくる。また、シミュレーションになると、例えば我々の研究室での経験では京都市内延々2kmの交通制

↑「コンピュータの合成ルールで作った題字」

御システムのシミュレーションで最適の交通信号を探すのに、十時間の中型計算機の運転を必要とした。また、四十秒の音声合成が、ハードウェアでは四十秒で出来るのに、そのハードウェアを作ってもよいというOKを計算機シミュレーションですべての検討をする、四十秒の声の合成に二時間もかかったのである。勤務時間八時間内にこんな時間は取れないから態勢は二十四時間運転を考えておかねばならない。

電子計算機へのオンラインといっても千二百百位では遅すぎるこれでは文字のような情報、電話線による音声位しか送れない。工学の設計には図面が要る。写真が要る。図面や写真を送るには、現在我々の研究室では同軸ケーブルを五十本位計算機に継いでいる。本数が多いのは自慢にならないが計算機のサイクルタイム2μs、データチャンネル6μsは遅すぎる。図面や写真の処理に中型や大型の計算機がかかり切りでは高くついて仕方がない。十数倍以上速い計算機が必要になるし、もっと効果的な通信方式、記憶方式が出現しなければならぬ。データの伝送にしても磁気テープ一巻以上のも

のをカードでやり取りしてはどうかにもならない。磁気テープや磁気ディスクによる運搬や伝送が必要になってくる。

一方、現在の電子計算機は自然言語という人間の生の言語には極めて弱い。しゃくし定規の標本みたいなコンピュータを何とかしなければならぬ。文字や図面や音声のパターン認識をする計算機、ああいえばこれも関係があるという連想能力のあるコンピュータが必要になってくる。

そのような純工学的な開発も情報工学の一つの目標であろうが、情報は人間の活動の最も基本的なものである。新しい与えられた目標・物・システムに対してどのように考えてゆくとうまく具体的に工学の分野にまで持ち込むことができるか。これは現在でも将来でも極めて重要である。現在の時点においてもコンピュータという高速で、しかも可変な数字や固定の文字情報を大量に記憶できる強力な機械を、いかに上手に使いこなして、自分の研究に、管理に、生産に役立てるようになるかは緊急で重要な問題である。

使う言葉の違うコンピュータと人間とは意志が疎通しない。何回かの対話が必要になってくる。

つまり、その人の考え方、必要とする情報、によって何回か通信線端末装置を介してコンピュータと対話をしなければならぬ。

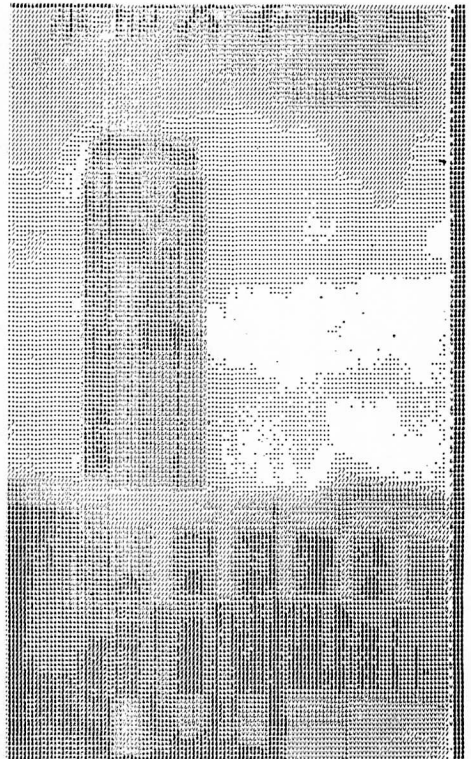
将来の都市は wire city (有線都市) になるだろうと言われている。個々の人々に確実に安く、しかも双方方向に通信できる同軸ケーブルが網の目のように張りめぐらされるからである。CATV (有線テレビ網) が現在各界から注目を浴びているのもこのような考えからである。

電気通信、特にデータ通信はコンピュータと共に情報工学、情報社会の二つの柱をなすものであって、これを分離しては考えられない。情報工学が、工学の一つの分化の流れであると共に、情報の創造、伝達、記憶、加工、表示などであらゆる工学、理学の基礎でもある。つまり、縦割りと共に横割りの要でもある。

情報工学科が母校の京都大学に日本で初めて設置された。現在は一回生のみであるが、大学院博士課程ができて卒業するまで後八年はかかる。八年経って情報工学科が完成したときに、陳腐なものになっていたり、アクティビティが下ってはいけようにもならない。しかも前述のように学生の教育、研究と言う立場では、原子力関係

の学科に似てかなり膨大な費用がかかる性格のものである。

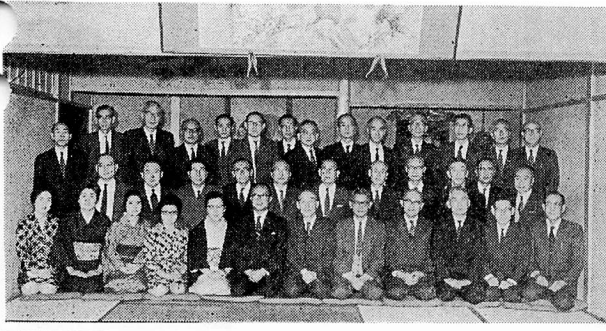
既存の一つの分野でなく、広くあらゆる分野にも大きい影響のあるコンピュータやデータ通信、情報の創造、開発の手法や方針を扱わねばならない使命のある学科でもあるので、十年先で常識となるような設備、建物、考え方を現在から想定して実現に努力しなければならぬ。私はそう思っている。会員諸兄の御理解、御援助を仰がねばならぬ点が極めて多いように思います。また情報工学はいろんな意味で面白いように感じますので、御子弟、友人などから相談、質問をうけられたら、この雑文を思い出してお答え下されれば幸いです。



↑「京大時計塔の写真から電子計算機による印刷」

前頁の顔写真も「電子計算機による印刷」

昭 十 会



昭和十年三月に卒業してより三十五周年を迎えた昭十会は、万国博の期間をさけて、十一月一日に松田、羽村両先生をお迎えして、明治維新ゆかりの京都木屋町旅館幾松にて、記念同窓会を開いた。案内数四十九名中三十名という多数の出席者と同伴の夫人五名の参加があり、両先生の母校の状況や興味あふれるお話を始め、各人が近況の披露をし、卒業以来の新顔という珍客を交え、日頃のいかめしい顔も社長などの肩書ははずした学生時代の若々しい笑顔に戻って、久闊を満して存分に語り合い、祇園舞妓の優雅な踊りを見ながら愉快な一夜を過ごした。翌二日は、近江カントリーでゴルフを楽しむ者の他は、修学院離宮を参観した。(中沼 記)

関西支部 家族見学会

恒例の関西支部家族見学会は、従来と趣向を変え、秋も深まった昨年十一月十五日、タヌキが愛嬌をふりまく信楽陶郷を訪れた。

当日は、やや肌寒い天候にもかかわらず、大人一八四名、小人二名、計二〇六名(内会員一〇一名)の多くの参加者があり、また教室から前田憲一先生をはじめ、多くの先生方の御出席があった。また、ろくろ細工を楽しむにしたり、お子様連れの御家族も多く見受けられ、往き帰りの車中は一層賑やかであった。

信楽では、紫香楽の宮跡に立寄り、歴史の香をかいたあと、信楽焼かま元「宗陶苑」を訪れ、昼食のあと、それぞれ伝統あるのぼ



りがまははじめ、陶器の出来るまでを興味深く觀賞する人、ろくろ細工を楽しむ人、また名物の「タヌキ」を買求める人など、信楽焼の素朴な陶芸を心ゆくまで楽しんでだ。

今後とも、このような催しにできるだけ多くの会員の方々に参加していただき、関西支部の一層の発展を期待したい。

(幹事 森本浩志)

洛東会近況

洛友会東京支部の下部組織として洛東会があります。昭和二年から昭和七年の六ヶ年の卒業の集りです。今までは年三〜四回位、夜の会合をやってきましたが、今年からは毎月十六日、東京都中央区

京橋二ノ二、京橋ビル地階(福井銀行地下)グリル宝来(電二八一―三九八二、一四の四)で開催、時間は正午から約一時間、会費はなし、自分で好きなものを勝手に注文して勝手に食らう形式。大体二〇人位は集ります。地方の方で十六日東上の節は是

洛友会役員会

昭和四十六年一月三十日(土)に、京都タワーホテルで午後四時より開催した。出席者左記の通り

- | | |
|------|----------|
| 会長 | 鳥養利三郎 |
| 副会長 | 前田 憲一 |
| 幹事 | 間崎 龍夫 |
| | 内田 幸夫 |
| | 山本 茂雄 |
| | 大谷 泰之 |
| | 近藤 文治 |
| | 北野 山人(講) |
| 東京支部 | 西本 憲三 |
| 関西支部 | 上西 亮二 |
| " | 並木 博 |
| 九州支部 | 河本 勝寿 |
| 中部支部 | 古田 久一 |

議題

- 一、昭和四十五年度決算報告概要
 - 二、昭和四十六年度予算
 - 三、名簿及び会報に対する意見
- 以上は、形式的に山本幹事より

非御立寄り下さい。但、一寸同グリルに電話して下さい。十六日が土曜日又は日曜日の際には次の月曜日に繰り下ります。尚、夜の集りの方も年二回位は盛大にやる予定です。(昭四 久野清 記)

説明報告があったが、その後、自由相談する趣旨で意見の交換を行った。その一として会報の内容を充実し、もっと度々発行することにより、会員の消息を知り、又各支部の活動状況や自慢話等をどしどし投稿して貰う様、又原稿を集める方法として各支部に編集幹事を作って頂くことや、若年層の方々の関心を向けて貰う方法等意見が述べられた。又会報の収入源として、会社の新製品の紹介等の広告を、会報にも載せる事も、幹事に於て検討する事となった。此の会に、遠方よりわざわざ御出席頂いた東京支部長西本氏や九州支部河本副支部長、中部支部古田幹事に厚く御礼申し上げます。(幹事 山本 記)

現住所不明者

- | | |
|------------|-----------|
| 昭16・3 高橋正秋 | 16・3 吉田武彦 |
| 23 古河寿之 | 23 伊藤義三 |
| 山下裕 | 24 志賀宏 |
| 26 永田信久 | 28 新井上誠一 |
| 29 高田博 | 30 村田幸夫 |
| 31 常田幸 | 34 松野隆昭 |
| 34 深尾正之 | 34 大家寛 |
| 35 上田裕 | 35 杉山時雄 |
| 36 池田一光 | 35 稻村彰一 |
| 36 若林義雄 | 36 富田芳正 |
| 36 山内史志 | 36 小林正明 |
| 37 内田直也 | 37 植田隆夫 |
| 37 原秀穂 | |

講習所

- | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|---------|
| 37 修三石勉 | 38 茂木俊秀 | 38 真栄城朝章 | 38 宇山親雄 | 38 阿川泰 |
| 38 越智克躬 | 38 児玉利恒 | 38 馬場賢 | 39 小沢豊彦 | 39 丹洋一 |
| 39 修 | 39 加藤隆是 | 40 春木嵩 | 40 秋田乾一郎 | 40 中野涉 |
| 40 | 40 中野涉 | 40 吉田忠則 | 40 野垣和博 | 41 中村保 |
| 41 小田尚 | 41 黒田重信 | 41 白井晋 | 41 鈴木英雄 | 42 稻生公 |
| 42 | 42 市原達朗 | 42 川崎洋吾 | 42 林靖人 | 42 久樹隆彦 |
| 35 北脇重康 | 42 渡辺明正 | 43 中野英明 | 43 桜井秀時 | 43 隈元昭 |
| 43 田村陸彦 | 44 津田孝 | 44 室信治 | 44 玉井正治 | 45 三宅良 |
| 45 川神裕志 | 45 児玉清一郎 | 45 小林芳樹 | 45 脇一幸 | 45 青木勉 |
| 45 伊藤恒夫 | 45 江口一彦 | 45 菊谷省悟 | 45 内藤修治 | 45 山田稔 |
| 45 吉田民也 | | | | |
- 昭11 西村正己 12 西村正己 12 栗野虎一 14 吉岡実
- 右記の方々、現住所をご存知の方へご連絡下さい。再々勤務先等へ問合せましたが、一向に手掛かりがございませんので、何卒会員皆様のご協力をお願い致します。(事務局)

昭和四十六年度総会予告

日時 六月五日(土)
会場 国際観光「八芳園」
東京都港区芝白金台町1の52
詳細は次号にて御案内申し上げます。

昭和46年用名簿訂正箇所

- 昭21 林 唯一
昭36 高口 顯三
昭37 小笠原 健彦
昭42 白須賀 賢行

講習所

- 昭3 服部 力男
昭15 上野 満

訃音

大 5 稲田 虎彦 45・11・15

大 10 岩垂 好徳
昭 2 熊谷 三郎 46・2・10
昭 3 加藤 博見 46・2・10
昭 37 黒瀬 泰之 45・11・30
昭 41 滝本 文男 45・3・7
講昭4 吉林 貞次郎 45・1・1
講昭5 篠本 寿美 43・1

編集後記

○大阪大学名誉教授七里義雄先生より御玉稿を賜わり巻頭を飾ることが出来ました。先生に厚く御礼申し上げます。
○最近のエレクトロニクスの情報工學に就て、前号より清野先生より教室の現況を説明して頂きました。本号には、更には坂井利之教授より、平易な解説を御願ひし、素人にも分る様、情報に就て御執筆を御願ひしました。

○去る二月十日、関西支部長加藤博見氏と、愛媛大学学長熊谷三郎氏が急逝され、洛友会より御遺族に哀悼の御くやみを申し上げます。生前洛友会の育成、又後進の御指導を頂いた両氏の靈に、深く感謝すると共に、謹んで哀悼の意を表します。

(幹事 山本記)

電氣評論

電氣総合月刊雑誌

毎月10日発行

B5判 本文100頁 定価250円 送料18円

2月号特集

★電力施設と環境改善対策★

【特集】

- 1. 電氣事業と公害問題.....西本(中電協)
2. 電力会社と環境改善対策
(1) 東京電力.....小田(東電)
(2) 中部電力.....井上(中部電)
(3) 関西電力.....石橋(関電)
3. 自家用火力発電所におけるイオウ酸化物の減少対策について.....二瓶(通産局)

【一般論文】

- 1. 昭和45年の電力界.....富田(通産局)
2. 海外主要国の電氣事業の近況...上島(海外電)
3. 配電線における微地絡現象の解明.....筑紫(中部電)
4. 保護継電装置の監視点検の自動化に対する動向.....安藤(東芝)

【暖房器シリーズ】

- 1. 電氣毛布.....中村(三菱)
2. 電氣足温器.....永嶺(東芝)
3. サーキュレータ.....井上(日立製)

【家電シリーズ】

カラーテレビ.....久野(松下)

【基礎講座】

- 1. 自動制御システム(最終回) 近藤(京大)
2. 有効接地(1).....木村(成蹊大)

【マンスリー】

- 1. 絶縁電線用引留め材料の進歩.....清水(東神)
2. 電力ケーブルの工場ドラムコロナ試験における発生ノイズの判定と管理.....松葉(古河)

【海外文献】ほか

3月号予告 特集

★キュービクル式高圧受電設備★

- 1. キュービクル式高圧受電設備の推奨制度について.....前田(通産省)
2. キュービクル式高圧受電設備について.....後藤(松下)
3. キュービクル式高圧受電設備変圧器について.....塩原(高岳)
4. キュービクル式高圧受電設備用主開閉器について.....大森(富士電)
5. キュービクル式高圧受電設備用避雷器.....西脇(東芝)
6. キュービクル式高圧受電設備の配線用シャ断器.....福島(三菱)
7. 電力会社からみたキュービクル式高圧受電設備のあり方.....菊野(東電)
8. キュービクルの推奨制度上の問題点.....川崎(関東電)

株式会社 電氣評論社

本社 京都市左京区田中大堰町49
電話 京都(075)701-2582
振替 京都 9906 (〒606)